

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：36101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23223

研究課題名（和文）食物繊維の需給構造からみた健康格差の研究

研究課題名（英文）The Study of Health Disparities from the Perspective of the Supply and Demand Structure of Dietary Fiber

研究代表者

稲倉 典子 (Inakura, Noriko)

四国大学・経営情報学部・准教授

研究者番号：90845257

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 200,000円

研究成果の概要（和文）：格差の議論において、所得格差は常に重要なトピックであるが、健康格差にも大きな関心が寄せられている。国内においても、子どもの肥満割合や健康寿命の長さには、地域や社会経済状況の違いによる差が存在する。本研究では食品間の相対価格の変化に着目し、人々が必要な栄養素を摂取するための価格に関し、居住地域、年齢、所得階層をはじめとする世帯属性間で有意な差がある点を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

財・サービスの価格変化は、人々の生活に多大な影響を与える。特に、それらの上昇局面においては、総務省が公表する『消費者物価指数』に対する一般の関心も高まるだろう。ただし、報道等で引用される物価指数は、日本全体を対象としたものがほとんどである。本研究の学術的、あるいは社会的意義は、関連する共同研究とともに、物価の変化には世帯属性による異質性が存在する点を明らかにした点である。栄養格差、最低賃金、年金の議論などのあらゆる場面において、一国全体の物価水準ではなく、よりきめ細やかな物価水準で人々の厚生を評価する重要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：In discussions on inequality, income inequality is always an important topic, but there is also significant interest in health inequality. Even within a country, there are differences in the rates of childhood obesity and the length of healthy life expectancy due to regional and socioeconomic differences. This study focuses on changes in the relative prices of food and highlights significant differences in the costs required for people to obtain necessary nutrients based on household attributes such as residential area, age, and income level.

研究分野：応用ミクロ計量経済学

キーワード：格差 価格指数 栄養

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

格差の議論において、所得格差は常に重要なトピックであるが、健康格差にも大きな関心が寄せられている。国内においても、子どもの肥満割合や健康寿命の長さには、地域や社会経済状況の違いによる差が存在する。人々の健康状態と社会経済的地位 (Socioeconomic status, SES) の関連については、社会疫学や栄養疫学をはじめとする公衆衛生の分野において多くの知見が積み重ねられてきた (WHO 2003, マーモット 2017 他多数)。上記の関連性については、因果関係を慎重に議論する必要があるものの、先行研究の多くが SES 間で食品の消費内容が異なることを報告しており、食品の需要行動が健康格差に多大な影響を与えていることを示唆している (Darmon and Drewnowski 2008)。なお、食品の需要行動を理解する上で、予算制約や食品間の相対価格の変化は重要な要因であり、このことは経済学的手法を用いた研究が健康格差の解明に貢献できる大きな余地を生み出している。

上記をふまえ、本研究では食品間の相対価格の変化に着目し、人々が必要な栄養素を摂取するための価格に関し、居住地域、年齢、所得階層をはじめとする世帯属性による差があるのか否か、を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、生鮮野菜・果物市場を食物繊維が取引される場ととらえ、地域間の健康格差を市場構造の違いから明らかにすることである。地域の市場構造とは、栄養素を摂取する際の代替的な食品の多さや、需要曲線および供給曲線の価格弾力性の違いなどを指す。

本研究の独自性は、食品から得られる栄養素を総合的にとらえる点にある。食品からの栄養摂取を考える上で重要な点は、摂取するグラム数や支払った金額の多寡ではなく、その食品からどのような栄養を摂取できるか、という点である。なお、複数の食品から単一の栄養素価格を構築する手法は、申請者が携わった研究 (稲倉・阿部・井深・森口「日本におけるカロリー価格指数と栄養素価格指数の長期的推計」『経済研究』2019) ですでに発表しているため、完全に新しいものでない。ただし、地域における栄養摂取量・価格変動の背後にある要因として、需要・供給要因のいずれが寄与しているのか、を定量的に明らかにする点は新たな試みである。

3. 研究の方法

価格指数を算出する際の構成要素は、個別品目の価格情報、および、それらを集計するためのウェイトの情報である。居住地域、年齢、所得階層といった世帯属性により、消費する財・サービスに違いがあれば、たとえ地域間で商品価格の差が小さい場合も、家計属性ごとに計算された価格指数は異なるものになる。本研究では、複数の公的統計 (総務省が公表する『家計調査』、『全国家計構造調査』、『小売物価統計』、『消費者物価指数』、および文部科学省が公表する『日本食品標準成分表』) を突合し、世帯属性による消費バスケットの違いを反映した価格指数を推計した。なお、財やサービスの取得単価は、SES により異なる点も考慮し、本研究では、総務省の『家計調査』の食料品の重量情報と支出金額から、属性別の単価も算出した。ウェイトの

情報については、世帯属性別の栄養摂取量を算出し、栄養素単価の算出も試みた。

4. 研究成果

関連する共同研究とともに以下の点を明らかにした。いずれも、上記であげた公的統計を活用し、属性間、あるいは時点間の実質消費、インフレ率の格差の分析に取り組んだものである。

- (1) 『家計調査』を活用し、世帯属性別の栄養摂取状況を推計した。年齢や所得をはじめとする世帯属性間で、栄養摂取量に有意な差があることが明らかになった。(森口・稲倉・阿部・井深, 複数の学会で発表)
- (2) 47 都道府県の食料品の年間平均価格をもとに、都道府県「間」の価格指数を推計した。食料価格指数については、都道府県間で顕著な違いは観察されないものの、指数算出間で無視できない違いが生じる点も明らかになった。(阿部・稲倉, 2022)
- (3) 『全国家計構造調査』を用い、都道府県別の所得階級別の価格指数を推計した。2019 年以降、所得階級間のインフレ率の差が、都道府県により異なる推移をたどっている点を確認した。(阿部・稲倉, 2023)
- (4) 『家計調査』を用い、世帯主年齢、世帯年収、居住地域別の価格指数を推計した。特に、2020 年以降は、属性として年齢を考慮するか否か、が実質消費の推計に大きな影響を与えることが明らかになった。(阿部・稲倉, 複数のセミナー等で発表)

(参考文献)

- 阿部修人・稲倉典子 (2022) 「地域間物価指数の離村と都道府県別物価指数の構築」経済研究, 73 (2), pp.160-180.
- 阿部修人・稲倉典子 (2023) 「物価上昇と所得・地域特性 深刻な影響はどこに？」『世界』, 1月号, pp.107-115.
- 稲倉典子・阿部修人・井深陽子・森口千晶 (2019) 「日本におけるカロリー価格指数と栄養素価格指数の長期的推計」経済研究 70 (2), pp.113-145.
- マイケル・マーモット (2017) 『健康格差』, 日本評論社.
- Darmon, N., and Drewnowski, A. (2008) "Does Social Class Predict Diet Quality?" Am J Clin Nutr 87, pp.1107-17.
- WHO (2003) Social Determinants of Health: The Solid Facts. 2nd edition.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 阿部修人・稲倉典子	4. 巻 73(2)
2. 論文標題 地域間物価指数の理論と都道府県別物価指数の構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 160-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部修人・稲倉典子	4. 巻 1月号
2. 論文標題 物価上昇と所得・地域特性 深刻な影響はどこに？	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 107-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujii Yoichiro, Inakura Noriko	4. 巻 25
2. 論文標題 Do individuals have consistent risk preferences across domains?: evidence from the Japanese insurance market	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Economics	6. 最初と最後の頁 604-620
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15140326.2022.2045468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森口千晶・阿部修人・井深陽子・稲倉典子	4. 巻 73(1)
2. 論文標題 日本における世帯属性別の栄養摂取状況－『家計調査』オーダーメイド集計データを用いた推計－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 49-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 稲倉典子
2. 発表標題 地域別・所得階級別物価指数
3. 学会等名 実証的なモラル・サイエンス研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森口千晶・稲倉典子・阿部修人・井深陽子
2. 発表標題 日本における社会経済階層別の栄養摂取と栄養素価格指数の長期的動向
3. 学会等名 医療経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲倉典子
2. 発表標題 日本におけるカロリー価格指数と栄養素価格指数の長期的推計
3. 学会等名 グローバルビジネス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲倉典子、森口千晶、阿部修人、井深陽子
2. 発表標題 日本における所得階層別の栄養摂取と栄養素価格指数の長期的推計
3. 学会等名 日本経済学会 2020年度 春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲倉典子
2. 発表標題 日本における栄養格差とその長期的動向 『家計調査』オーダメード集計データを用いた推計
3. 学会等名 関西労働研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口千晶、阿部修人、井深陽子、稲倉典子
2. 発表標題 日本におけるカロリー価格および栄養素価格の長期的変動とその肥満への影響
3. 学会等名 医療経済学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関